

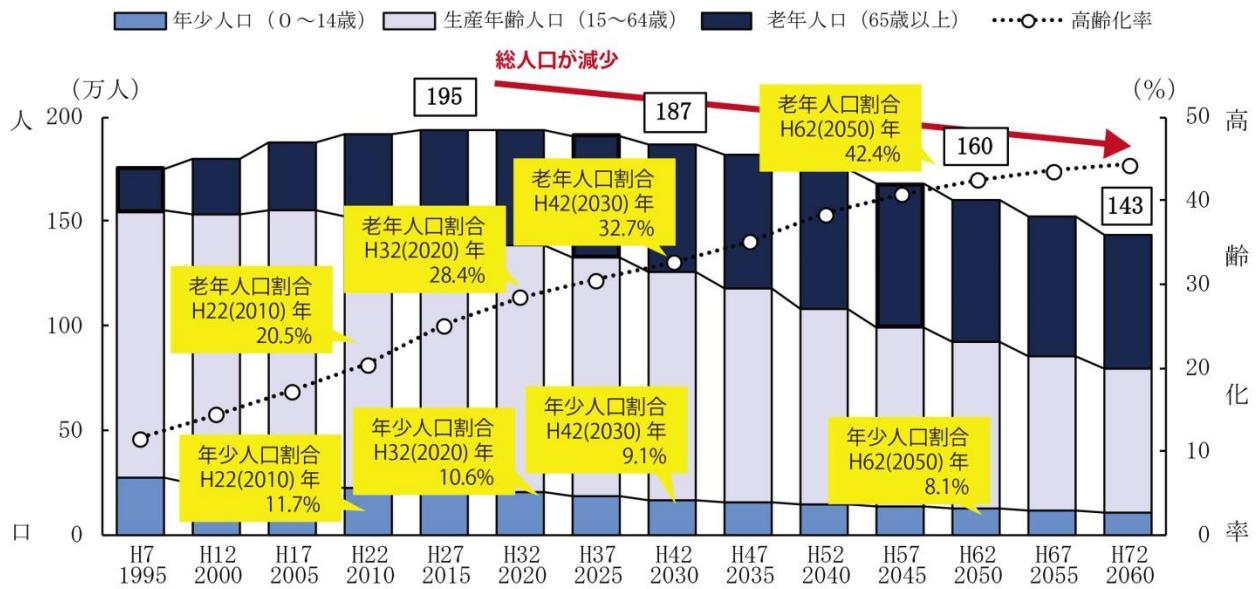
# 環境保全対策を通じた人口減少・少子高齢化対策について

## ■人口減少・少子高齢化の背景と現状

### ○人口推移と高齢化

札幌市の人口は平成27(2015)年頃の約195万人以降、ここ数年のうちに人口減少へ転じると推計されており、平成42(2030)年には約187万人、平成72(2060)年には約143万人となることが見込まれている。  
 年少人口は、数・割合ともに減少している一方、老年人口は数・割合共に増加しており、今後もその傾向が続くと推計されている。

札幌市の人口と高齢化率の将来見通し (各年10月1日現在)



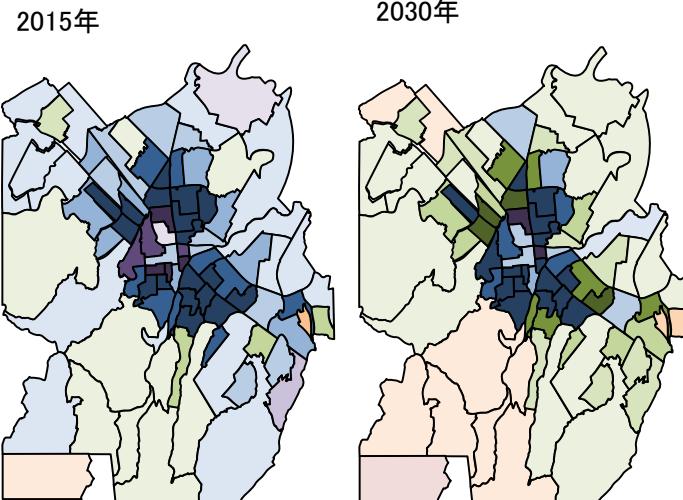
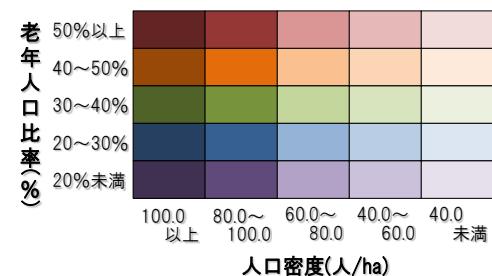
注：平成22年以前の総数には年齢「不詳」を含む。 <資料> 総務省「国勢調査」、札幌市

老年人口(65歳以上)の割合は、平成22(2010)年では20.5%であるが、平成32(2020)年には28.4%、平成42(2030)年には32.7%と、約3人に1人が高齢者となることが見込まれている。

### ○地区別に見た高齢化と人口密度 (将来推計)

出典：将来推計人口に基づく地域分析調査を基にまちづくりセンター区域別人口とその面積から人口密度を算出し対比して図示化

地区別で見ると、郊外では老年人口の比率の増加と人口密度の低下が進行する。反対に、中心部に人口が集中する。  
 ますます、郊外での生活利便性の低下などが懸念され、都市計画や交通に関する対策が必要となる。



## ■札幌市の人口動態から見られる課題

札幌市の人口動態において、出生に関する自然動態と転出入に関する社会動態から見られる課題がある。

### 自然動態に関する課題

#### ■課題：高い未婚率と低い出生率

札幌市の、平成26年度(2014年度)の合計特殊出生率は、1.16と、東京と同水準となっており、全国平均の1.42(平成26年度(2014年度))を大きく下回っています。また、25~39歳の女性の未婚率がどの世代も全国平均を上回っており、女性の未婚率の高さが少子化の一因となっている。

#### ■課題：結婚後の生活資金の安定

結婚への最大のハードルは、結婚後の生活資金であり、雇用の創出や安定などの雇用対策が重要である。

### 社会動態に関する課題

#### ■課題：若い世代の道外への転出

15-29歳の若い世代については、道内からは転入超過となっているが、道外に対しては首都圏を中心とした地域に対して転出超過となっている。

## ■少子高齢化によって顕在化する課題

- 生産年齢人口の減少による経済規模の縮小
- 安心・安全な暮らしに関する課題
  - ・空き家の増加による治安悪化、子どもの安心安全への配慮の必要性
  - ・地域防災力の低下(災害時要配慮者対策、避難所運営)
- 高齢者の暮らしに関わる課題
  - ・単身高齢世帯等の増加(見守りや支え合いなど孤立化対策)
  - ・生活利便機能の低下、高齢者の交通の確保(買物難民、除排雪)
- 地域コミュニティに関する課題
  - ・地域コミュニティ(地域住民同士のつながりや連帯感)の希薄化
  - ・地域活動の担い手不足(各種地域行事の維持困難化)

## ■札幌市の取組(環境面)：少子高齢化の環境関連の施策(札幌未来創生プランより)

### ○札幌型環境・エネルギー技術開発支援事業

市内企業などが行う環境・エネルギー分野の技術開発などの取組に対し、補助や首都圏展示会への出展を支援。

### ○次世代エネルギーシステム導入補助事業

市民及び事業者などに対して太陽光設備、家庭用燃料電池、木質バイオマス燃料機器などの次世代エネルギー機器の普及を図るため、導入支援補助や普及啓発を実施。

### ○高断熱・高気密住宅普及促進事業

住宅の省エネルギー化を促進するため、高断熱・高気密住宅の基準である「札幌次世代住宅基準」に適合する住宅の建築主に対して建築費の一部を補助。また、集合住宅についても基礎調査を実施して、新たに基準を設定するとともに、市営住宅において高断熱改修の実証実験を行う。

### ○次世代エネルギータウン検討事業

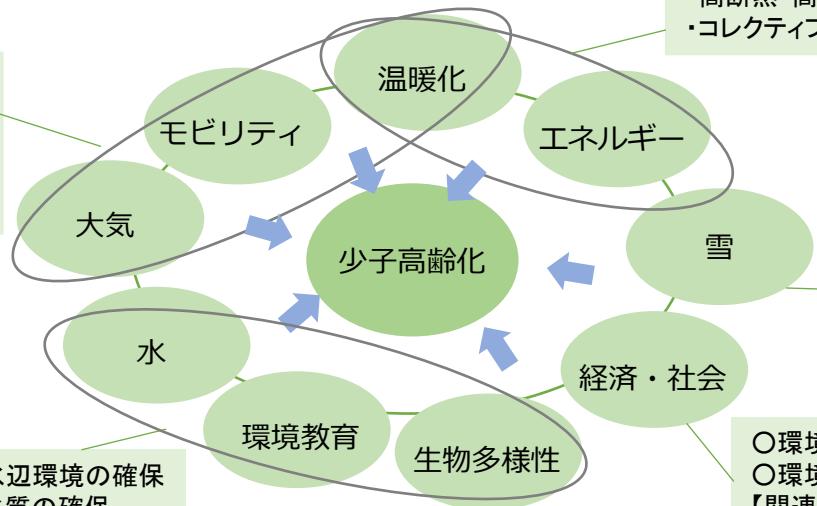
低炭素社会と原発に頼らない社会の実現を目指すため、真駒内地区をモデルとしてスマートコミュニティや将来的な水素社会を見据えた水素タウンのあり方などを検討し、世界に誇れる次世代型エネルギータウンのコンセプトを提示。

# 環境保全対策を通じた人口減少・少子高齢化対策について

## 環境保全対策の各分野における人口減少・少子高齢化に関連する施策の例（案）

○交通利便性の促進と良好な大気環境の確保  
【関連する施策】  
・環境に優しい移動手段の選択促進  
・公共交通機関の利便性向上

○子どもが安心して遊べる水辺環境の確保  
○安心して子育てができる水質の確保  
【関連する施策】  
・水辺でのふれあい空間の創出  
・水質保全の推進



○エネルギー効率の良いまちづくり  
【関連する施策】  
・コンパクトなまちづくり  
・高断熱・高気密住宅普及促進  
・コレクティブハウスやスマート街区の形成

○冬季の安心安全な暮らしのための住まいやまちづくり  
【関連する施策】  
・雪害救助員の取組  
・コレクティブハウス等の集住化  
・計画的な街区の形成

○環境ビジネスの推進  
○環境を活かしたシティプロモーション  
【関連する施策】  
・環境エネルギーの技術開発  
・次世代エネルギーシステム導入補助  
・環境を活かしたシティプロモーション

## 地域コミュニティにおける課題と環境保全対策を検討する上での視点（案）

人口減少・少子高齢化の課題	環境保全対策を検討する上での視点
子育て世代の転入促進	○安心して子育てできる環境の確保
雇用創出による若年層の転出抑制と転入促進 雇用の安定化と結婚の促進	○環境ビジネスの推進
転入促進	○環境を活かしたシティプロモーション
高齢者の暮らしの確保	○高齢者でも住みやすい住まいやまちづくり
老年人口比率増、人口密度減の地域への対応	○コンパクトなまちづくり
少子高齢化による多様で複雑な課題への対応	○地域コミュニティの活性化※後に議論

環境保全対策を検討する上で、上記の視点を考慮することで、人口減少・少子高齢化の課題解決とともに、環境保全活動の広がりや深まりが期待できる。

## 取組事例

### 【交通利便性の確保と良好な大気環境】

#### ■使い勝手の良い定期券による公共交通の利用促進(スイス)

・150もの公共交通の運営会社のどれでも共通の切符・定期券となっている。  
・国鉄や、バス、トラムの運賃がどれも半額になる半額定期券や、1年間で全国の公共交通を何度でも乗り降りできる全国定期券(値段は2等車で約31万円)の価格も安いので多くの人が利用している。



(当別町HPより)

#### ■環境に配慮した車両の活用(当別町)

・バイオディーゼル燃料の導入による大気汚染の軽減  
・子どもに対する環境教育での意識向上につながっている



(Slow "Mobility" Life ProjectHPより)

### 【コンパクトなまちづくり】

#### ■ドイツ・ライプツィヒのコンパクト化

需要の少ない建築物の撤去と残した建築物の魅力向上でのコンパクト化  
・都心部の住宅供給  
・傷んでいる住宅や空き家に対する補助等を行い、住民による住宅の改修の推進  
・都心部の自動車の流入の抑制(駐車代の増加)による都市部の空間の魅力向上  
・空き家の保存活用やリノベーションの目的での、低価格での物件の貸し出し



若いクリエイターが移住している(小さな組織の未来学HPより)

#### ■アメリカポートランドのコンパクトシティ

・歩いて暮らせるまちとして設計されており、また、職住近接なので自動車を使わなくても暮らせるようになっていく。  
・都市部成長境界線を拡張させるには、住民投票が必要というほどの厳しいルールを設けて自然を保存しているため、都心部からさほど遠くない場所でレクリエーションが楽しめる。

#### ■東京:コレクティブハウスかんかん森

・0歳から70代まで約50人が生活しており、一緒に食事をとったりコモンスペースで団らんするなどコミュニティを形成している。



### 【子どもが安心して遊べる水辺環境の確保】

#### ■子どもが水とふれあえる公園等の整備

・モエレ沼、前田森林公園等

### 【シティプロモーション】

#### ■豊田市の環境プロモーション「ミライのフツー」を目指そう

・経済産業省の「家庭・コミュニティ型低炭素都市構築実証プロジェクト」等を行い、低炭素な暮らし方へ移行してきている豊田市は、環境先進都市として取組のPRと、ブランディングによるプロモーションを行っている。  
・コンセプトブックや紹介動画を作成し、プロモーションを行っている。



(豊田市HPより)

### 【冬季の安心・安全な暮らし】

#### ■長野県栄村の雪害救助員の取組

・豪雪時に備え、冬季の除雪のための臨時職員を雇用を行っている。自力での除雪が困難な半月分の給与が保証され、その他出勤回数で支給額が変わる。

#### ■下川町一の橋バイオビレッジ

・集住化による除雪負担の軽減  
・木質バイオマスによる地域熱供給の仕組み。



(下川町HPより)